

◆ 何でも徹底的に追究することで、自ずと道は開けます

11月4日(金)に最先端科学講演会が行われました。佐藤先生によるロート製薬での研究開発の話は、いかがだったでしょうか。

■ 「好きなことは、何ですか。やり遂げたいことは、ありますか」

この問いにどう答えますか。学科コースの選択をした皆さんは、大学に入って知りたいこと、研究したいことがあって当然だと思いますが、どうでしょうか。

■ 「言われてやるのと、自分でやるのは結果が同じでも、身につくものが違う」

この言葉は、忘れないでください。やらされていると思っている限りは、成長はできません。自分で動いてこそその進路実現です。

■ 「自分は何をやりたいのだろう。その時その時で変わっても良いと思う」

高校1年生の時に医者になりたいかったという佐藤先生は、医者ではなかったけれど、医療に関係する仕事に就きたいという思いを実現させました。途中で変わるとしても、その時、その時に真剣に考えた希望ならば自分にとっては良き道と信じて進みましょう。

■ 「NEVER SAY NEVER」

私は、ロート製薬は目薬をつくっている会社程度にしか認識してませんでした。しかし、佐藤先生から説明のあったのロート製薬の思いに感動しました。会社のホームページには、次のような説明が載っています。「NEVER SAY NEVER」はロートに流れるDNAを表す言葉であり、これから私たちが挑む未来に向かう宣言でもあります。決してあきらめないこと。不可能を可能に変えていくこと。常識の枠を超えて挑み続けること。ロート製薬の歴史は、人がやらない事をやるという挑戦心を持った先人たちにより作られてきました。常識破りの商品開発や、誰もが無理だと思うほど難易度の高い課題も、「難しいからこそ、あえてやる」という精神で切り拓いてきました。」皆さんも、難しい道をあえて進む勇気を持ってください。

■ 「何でも徹底的に追究することで、自ずと道は開けます」

佐藤先生が、最後のメッセージとして皆さんに送った言葉です。体毛が茶色く変わるマウスに疑問を抱き、色素細胞の遺伝子について研究をされたということでした。その時の研究が、現在のアトピー性皮膚炎の研究に活かされているとおっしゃってました。今、皆さんは、覚えることに力点を置いた学習をしているのですが、「知りたい」ということを追究することが、学問の基本です。興味、関心を抱いた分野を追究したいとの思いをぜひ持って、勉強に望んでください。

◆ ひきこもりは誰にでも起こり得る

論点スペシャル「ひきこもりを経験して」

平成28年11月2日(水) 読賣新聞より

学校や仕事に行かず、家族以外と交流を持たない「ひきこもり」の状態に苦しむ人が少なくない。15～39歳を対象に行った調査を基に内閣府が9月に公表した推計では、全国で54万人。

部屋や家から出ない人や、近所のコンビニなどには出かける人で、その状態が6か月以上続いている人を狭義のひきこもり(推計17万6000人)と定義。これに、趣味の用事のときだけ外出する人を加えた広義のひきこもりが54万1000人と推計された。

■ 誰にでも起こり得る

「ひきこもりは、何らかのきっかけで居場所を奪われ、社会適応ができなくなった状態で、誰にでも起こり得る。我々が社会適応しているように見えるのは、たまたま事故に遭わなかっただけだ。大人でも人生の急変を機に起きることがある。近年、就職後に起きる引きこもりが増えている。」

(筑波大学教授 斎藤環さん)

■ 「完璧な自分」復帰を邪魔

「有名私立中学に通い、近所で神童と言われていましたが、2年生の2学期から行かなくなりました。夏休み前、登校中におなか痛くなり、ウンコをもらして恥ずかしかったのが引き金です。学校が遠く、部活して遅く帰って勉強して、ちょっと寝て学校へ行く、という毎日に限界が来ていたころでもありました。中学校受験の頃から始めた勉強前の段取り、「ルーティン」がエスカレートしていました。掃除をし、机を整頓し、しまいに折れたシャーペンの芯がじゅうたんに紛れたら、見つかるまで何も手に付かないような。段取りに振り回され、夏休みの宿題もできてなかった。(中略)最初は「とりあえず1週間」ぐらいの気持ち。でも1週間たつと、借金と一緒に引目の利子みたいなのがどんどんたまる。引きこもり状態は6年続きました。中学は4年在籍して卒業扱いにしてもらいました。(中略)「人生が余った」と思いました。社会復帰を考えても、自分が最高潮だったとき思い描いた将来は絶対に無理だと思い、また落ち込む。自分を許してあげられなかった、あきらめてあげられなかったのが、苦しむ原因になりました。(中略)6年間はムダだった。あくまで僕の場合は、ですけど。でも、そのムダが許せないのが一番問題なのかなとも思う。

みんながキラキラしてないとだめだっていうのはウソです。みんなが輝かしいゴールを切れるわけでもないのに、「みんなそうだろう」って風潮がありすぎる。なんにも取り柄がない人間が、ただ生きていても、なんにも責められない社会、というのが正常です。」

(お笑いコンビ「髭男爵」 山田ルイ53世さん)

◆性教育講話の中で「いろいろなことがあるから成長する」という話がありました。すべての事を頑張れた方が良いでしょうが、頑張れない時もあるって当然です。「思春期は、スパイラルに成長する」のです。人間の成長は、一直線ではありません。時には、回り道をするときもあるでしょう。思ったように進めないときもあるでしょう。ただ、遠回りでも、ゆっくりでも前に向かって進みましょう。困ったときは、必ず誰かに相談してください。「助けを求める勇気を持つ」という気持ちも思春期には大切です。